2012 年 8 月 2 日

各　位

会　社　名　日本板硝子株式会社
コード番号　5202
本社所在地　東京都港区三田三丁目5番27号
代　表　者　吉 川 恵 治
問合せ先　広報･IR 部長　藤井一光
電　　話　03-5443-9477

2013 年 3 月期業績予想（第 2 四半期・通期）の修正および営業費用の計上について

当社は、本日開催の取締役会において、本年 5 月 10 日の 2012 年 3 月期決算発表時に開示した 2013 年 3 月期（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）の連結業績予想（第 2 四半期および通期）を修正することとし、あわせて営業費用の計上を決定いたしましたので、以下の通りお知らせいたします。

１．　当期の連結業績予想数値の修正

(1)第 2 四半期(2012 年 4 月 1 日～同年 9 月 30 日)　(百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結税引前利益	連結当期利益	親会社所有者に帰属する当期利益	基本的1株当り当期利益
前回発表予想（A）	275,000	△3,000	△8,000	△6,000	△6,000	△¥6.65
今回修正予想（B）	260,000	△13,000	△19,000	△17,000	△17,000	△¥18.84
増 減 額（B－A）	△15,000	△10,000	△11,000	△11,000	△11,000	△¥12.19
増 減 率（　％　）	△5.4	△333.3	△137.5	△183.3	△183.3	-
参考：前期実績	288,543	9,192	6,381	6,306	5,727	¥6.35

(2)通期(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)　(百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結税引前利益	連結当期利益	親会社所有者に帰属する当期利益	基本的1株当り当期利益
前回発表予想（A）	560,000	△4,000	△14,000	△10,000	△11,000	△¥12.19
今回修正予想（B）	530,000	△18,000	△30,000	△27,000	△28,000	△¥31.03
増 減 額（B－A）	△30,000	△14,000	△16,000	△17,000	△17,000	△¥18.84
増 減 率（　％　）	△5.4	△350.0	△114.3	△170.0	△154.5	-
参考：前期実績	552,223	4,386	△4,822	△1,749	△2,815	△¥3.12

２．　　業績予想修正の理由

当第１四半期において当社グループが直面する市場の状況は、当初の予想よりも大幅に悪化しており、これは特に当社グループの連結売上高全体の約 40%を占める欧州において顕著になっていることが背景にあり、営業損失が拡大しました。経済状況における不確実性の高まりにより、当社グループの主要製品の多くにおいて、数量が減少しています。経済見通しの悪化を受けて、消費者は高額支出の意思決定を先延ばしにする姿勢を強めています。

当社グループでは、リストラクチャリング計画の実施によるコスト削減効果が徐々に現れ、営業損益の改善につながるものと想定していますが、当連結会計年度中に市場の状況が大幅に改善することは予想しておりません。

税引前損失の拡大は、前述の営業損失の拡大に加えて、持分法適用会社の予想利益の減少によります。これらの会社は、主に建築ガラス分野に属しており、グループの連結子会社と同様に需要の減速に直面しています。

３．　　営業費用の計上について

当社グループは、本年 7 月 6 日にポルト・マルゲラ事業所（イタリア・ヴェネト州、ヴェニスの西対岸）の建築用フロート窯について、窯の燃焼を継続したまま生産を休止（ホット・ホールド）する旨の現地従業員代表への提案を発表しました。当第 1 四半期決算作業の結果、この施策に関して、有形固定資産の減損費用を認識することとしました。

⑴概要：

ポルト・マルゲラ事業所所在の建築用フロートライン 1 基について、窯の燃焼を継続したまま生産を休止します。再開時期は今後の市場状況を注視しながら決定してまいります。

⑵理由：

現在、各地域で進めている、需要にあわせた能力と生産量の削減施策の一環であります。

⑶業績への影響：

当該設備について、当第 1 四半期で 32 億 9 千 5 百万円の有形固定資産の減損費用を計上し、上記の修正営業損失予想にも反映させております。

以 上